



## 第5回 関西ライフサイエンス リーディングサイエンティストセミナー



本セミナーは、ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開している関西の先生方にご講演をいただき、製薬企業、医療機器企業、診断薬企業、健康食品、サプリ、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般の方々に、健康・健康産業に対するインスピレーションおよび産業化へのイメージーションを与えることを目的としています。このことは、産官学にわたる組織横断的なコミュニティーを醸成し、産官学の対話を促進することにつながると期待されます。

本セミナーは、2～3か月に一度の頻度で開催し、全10回を予定しております。毎回、2名の講師の先生から、最先端の研究についてホットな話題を聞くことができ、講師の先生と直接お話しいただける場を提供します。

第5回目は、創薬ターゲットとして注目を集める「疾患の鍵分子」セマフォリンと我が国発のバイオ医薬の創出に向けた抗体医薬開発の最前線をテーマにとりあげました。今回も多数の皆様に参加をいただきました。

日 時：2015年9月11日（金） 15:00—19:00

会 場：CIVI 北梅田研修センター オーエックス梅田ビル新館5F 507号室

15:00-16:00 「日本の免疫研究とその臨床応用 ～疾患の鍵分子セマフォリン研究も含めて～」

大阪大学大学院 医学系研究科 副研究科長 熊ノ郷 淳  
同 呼吸器・免疫アレルギー内科 教授  
同 免疫学研究フロンティアセンター 教授

アトピー性皮膚炎、喘息などのアレルギー疾患、関節リウマチ等の自己免疫疾患、多発性硬化症、骨粗鬆症、網膜色素変性症、心臓の突然死の原因、癌の転移・浸潤など、セマフォリンと呼ばれる蛋白質群が「疾患の鍵分子」であることが国内外の研究グループから相次いで報告され、疾患治療の創薬ターゲットとしても注目を集めている。今回のセミナーではセマフォリンの免疫疾患の病態への関与とともに、その治療標的としての可能性についての説明がありました。



16 : 00-17 : 00

「我が国発のバイオ医薬の創出に向けて ～抗体医薬にフォーカスして～」

大阪大学大学院 薬学研究科長

堤 康央

抗体やサイトカイン、ワクチンといった蛋白・ペプチド性のバイオ医薬の台頭により、昨今では、がんや自己免疫疾患など、難治性疾患の治療成績が著しく改善され、臨床での治療戦略や製薬企業での開発戦略はまさにパラダイムシフトの最中にあります。一方で、これらバイオ医薬は、ルーツは我が国であっても、欧米主導型の開発品がほとんどです。本観点から、我が国の医療領域における優れた基礎研究の成果を活用し、大学などに眠る創薬標的候補・基盤技術から、First-in-Classの画期的医薬品を開発しようとするアカデミア創薬が、創薬支援ネットワークなど、産学官のオールジャパン体制で推進されようとしています。我が国発のバイオ医薬の創出に向けた取組について、抗体医薬を中心に紹介いただいた。さらに、サイトカイン医薬やナノ医薬などの開発の最前線についての説明がありました。



17 : 30-19 : 00 交流会・名刺交換会

会場： 公益財団法人都市活力研究所 セミナー室



監 修：坂田恒昭（大阪大学大学院基礎工学研究科 特任教授）

竹田 潔（大阪大学大学院医学系研究科・免疫制御学、免疫学フロンティア研究センター教授）

後 援：大阪医薬品協会

共 催：NPO 法人バイオグリッドセンター関西

主 催：NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議、公益財団法人都市活力研究所

問合先：NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局 電話：06-6459-6795（魚谷、梅村、大嶋）

公益財団法人都市活力研究所

電話：06-6359-1322（味村）